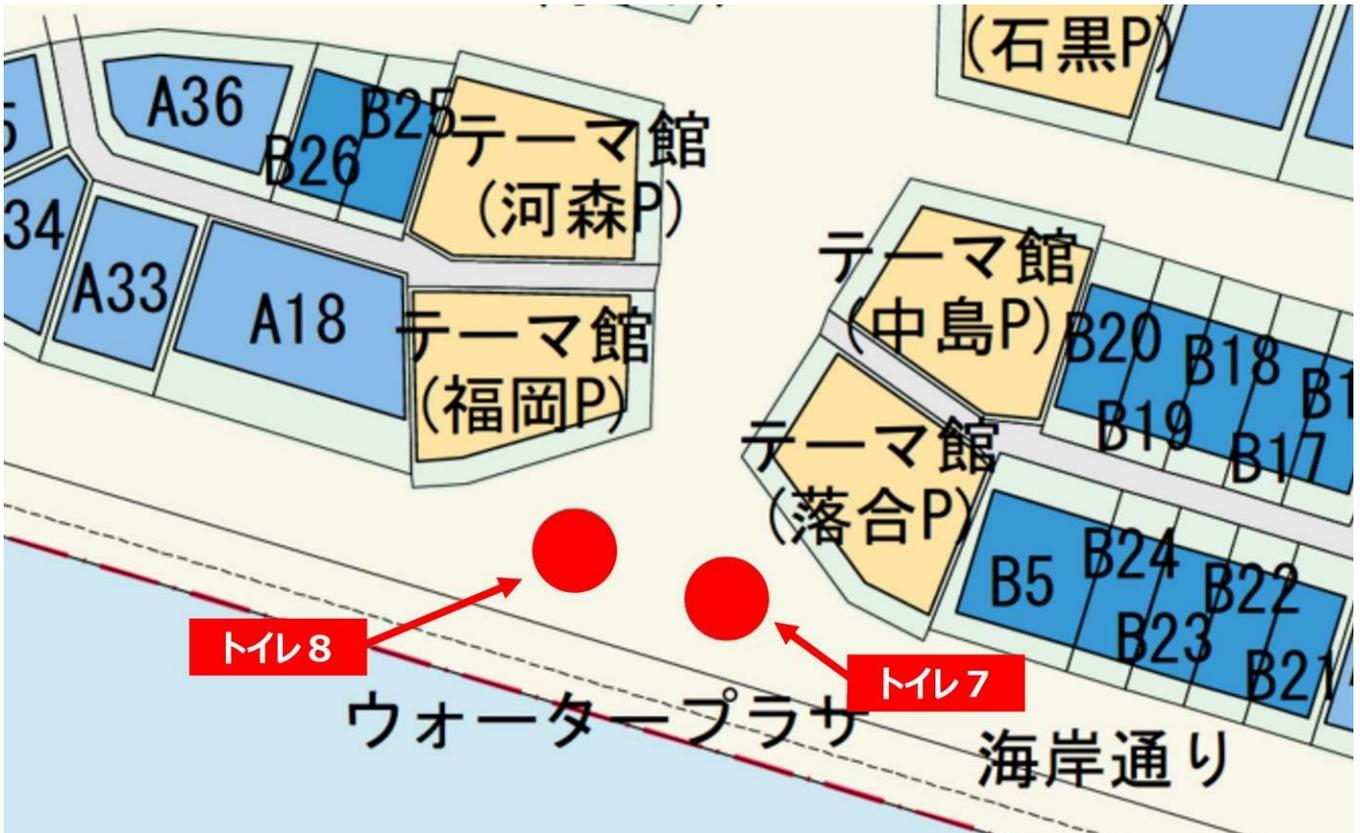
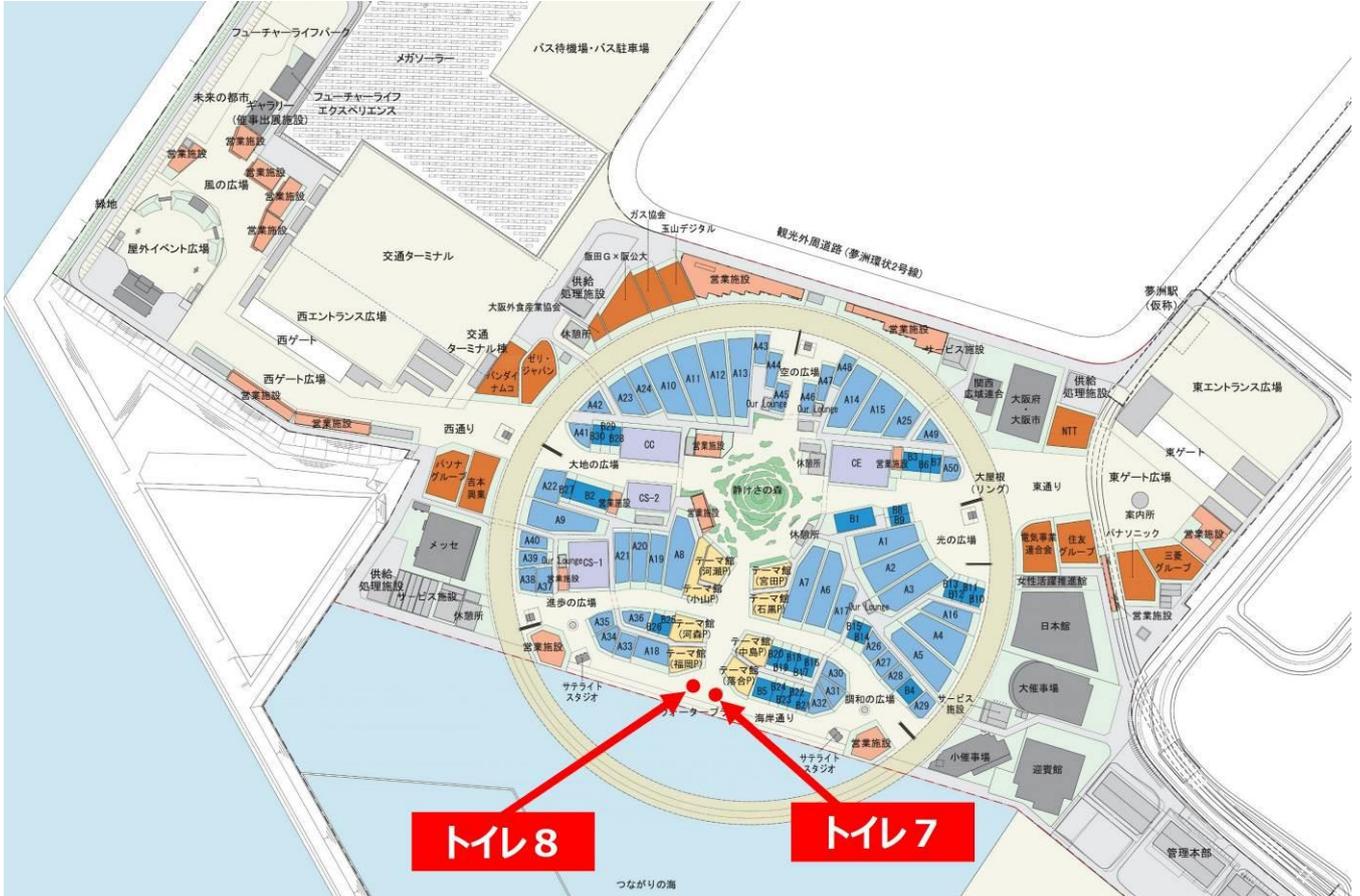




OSAKA, KANSAI, JAPAN
EXPO 2025

南東工区② トイレ7 / トイレ8





施設名：トイレ7



【施設概要】

①設計者：鈴木 淳平 + 村部 壘 + 溝端 友輔

| HIGASHIYAMA STUDIO + farm + 株式会社 NOD

②主用途：トイレ ③階数：平屋建 ④延床面積：95.46 m² ⑤構造：鉄骨造

設計コンセプト

3Dプリントされた樹脂パネルによってつくられる建築です。外周を湾曲したパネルで覆うことで、周辺の風景や光を不規則に反射させ、蜃気楼のように景色を映し込むことで広場に溶け込むような建築となります。同時にパネルは光を透過させることで、内部を光に満ちた空間にします。

パビリオンのような強い象徴性を示す存在ではなく、人や自然環境が寄り添うことで表情が変わるような建築を目指します。会期後、樹脂パネルは粉碎・再加工され、形を変えながら様々な場面で使われることを想定しています。

施設名：トイレ 8



パース①

【施設概要】

①設計者：斎藤 信吾 + 根本 友樹 + 田代 夢々

| 斎藤信吾建築設計事務所 + Ateliers Mumu Tashiro

②主用途：トイレ ③階数：平屋建 ④延床面積：56.19 m² ⑤構造：木造 一部 鉄骨造

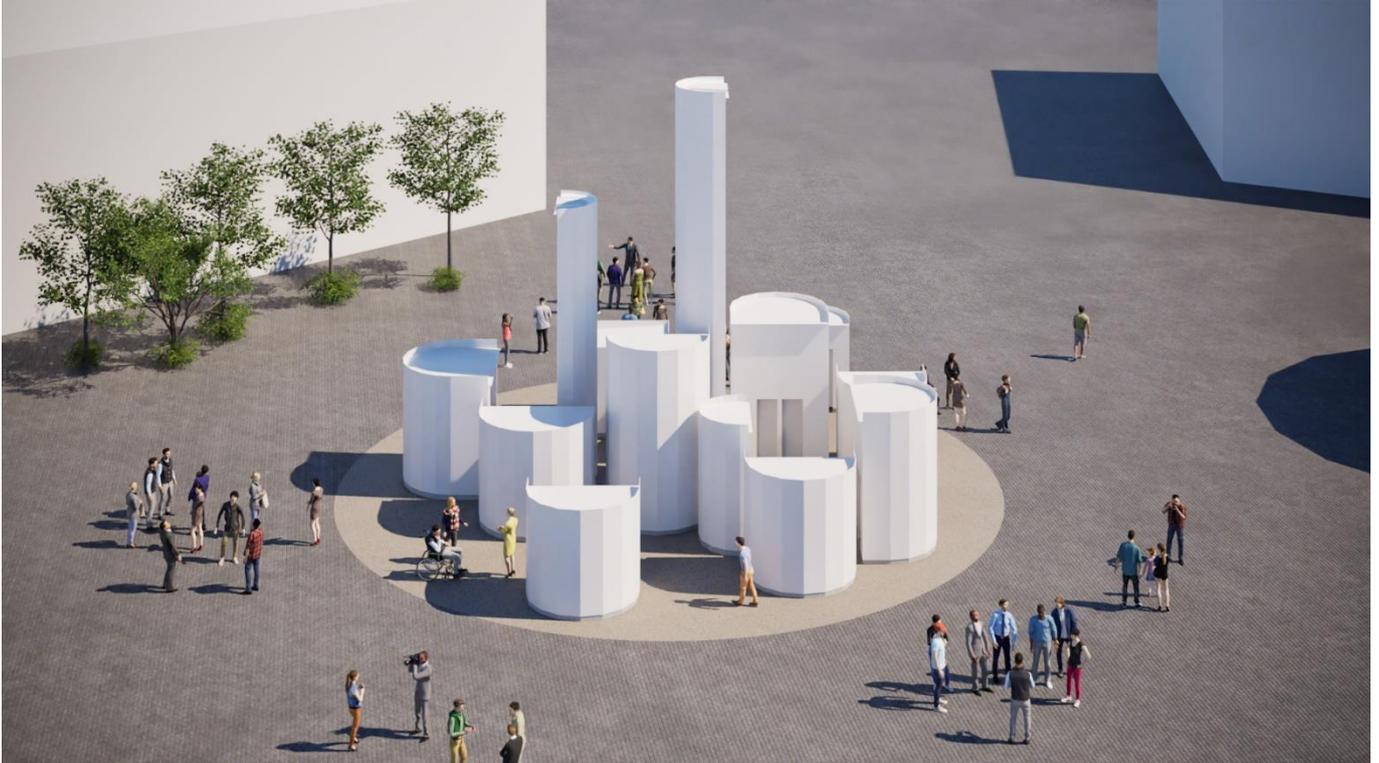
設計コンセプト

今を生きる人々は、様々な文化や国籍にルーツがあり、統一された言語はなく、宗教も異なり、体格や身体能力もバラエティーに富み、「こころ」と「からだ」の性や個性も多様化しています。これからは、従来の標準とされた「人間」をモデルに作られた「建築計画」を一度解体し、現代におけるあたらしい「かた」(typology) から建築を考える必要があるのではないのでしょうか。万博のトイレの計画では、視覚・聴覚障がい・車椅子利用者とのワークショップを行い、「こころとからだの性の多様性」にも呼応しながら、様々な国籍や宗教にも配慮した計画を行いました。個性ある異なるもの同士の総体が、へだたりながらもひとつながりの群となる風景を目指します。



OSAKA, KANSAI, JAPAN
EXPO2025

施設名：トイレ8



パース②